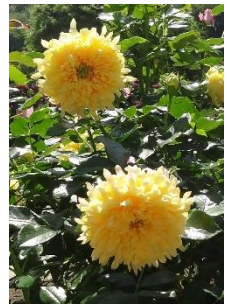


# お金のすゝめ

2024年6月  
第750号

日本基督教団 平塚教会  
発行人 平塚教会  
編集人 中山洋司  
〒254-0045 平塚市見附町6-18  
電話 〇四六三(32)八八三一



## お金を遣う覚悟と決意

平塚教会牧師 北川一明

私の神は、ご自分の栄光の富に依じて、キリスト・イエスにあつてあなたがたに必要なものをすべて満たしてください。

(フィリピ四・19)

平塚教会の昨年度の財政は、予算以上の献金収入に恵まれました。感謝しております。いっぽう支出は予算の90%でした。お金が余りました！

これが家庭のお財布なら喜ばしいことです。貯金が貯まり贅沢ができそうに嬉しくなります。しかし教会財政の見方は家計簿とは違います。支出実績が予算の90%だったのが無駄な出費を抑えた効果だとしたら善いことです。そうではなくて神と隣人のために働くことが予定の90%しかできなかったとしたら神に対して申し訳ないことです。

今の教会の現状をみると、単年度でたまたま収入超

過でも安心はできません。財務状態は中期的には決して良いとは言えないからです。すると財布の紐を締めなくなるのが人情です。

しかし冒頭に掲げた聖句は具体的にはお金のことを言っています。手紙の著者が福音宣教のためにお金を必要としていました。すると神は「必要なものをすべて満たしてください」とある通り、手紙の宛先である教会から献金が届いたのです。

伝道が低迷している昨今、どこの教会も将来の財政に不安を感じているでしょう。それでも教会が良い働きをしていたら篤志は集まります。惜しまず豊かに蒔いてこそ「刈り入れも豊かなのです(コリントⅡ九・6)」。それを保身に走ってわずかしかな種を蒔かないと「刈り入れもわずか(同)」で伝道はますます低迷します。さらに(神話的な言い方ですが)神さまに「この教会はお金が要らないようだ」と思われたら、起るはずだった奇跡も取りやめになるかもしれません。

たしかに収入については安心できません。収支がプラスとはいっても月定献金が減少傾向にあります。教会の高齢化から教会員全体の家計収入は減っているで

### 目次

お金を遣う覚悟と決意

牧師 北川一明 …1

附属平塚二葉幼稚園100年を迎える …3

2024年度スタート …4

母の日「カーネーション」  
教会学校長 庄司幸夫 …4

編集後祈 …4

しよう。さらに教会員数も毎年減少しています。その意味で将来は悲観的です。それなのに収入が予算を超過したのは、逝去者ご遺族が感謝献金を献げてくださったからです。

現在の教会の年齢構成からみれば、多くの教会が同じ傾向にあるでしょう。月定献金は減り続け、葬儀関係の感謝献金はしばらく続いてから減少するでしょう。

平塚教会では、役員会はそれでも「だからお金が出て行かないようにしよう」とは考えませんでした。むしろ「だから教会の活動を盛んにしよう」と考えました。昨年単年度としては収入が満たされました。それは神が私たちの必要をご存じて、それを満たしてくださったからです。このままでは先細りと分かっているなら「このまま」で済ませてはなりません。

役員会では、少なくとも牧師謝儀分は月定献金でまかなうのが本筋だという議論も出ました。月定献金の予算額は牧師謝儀以上ですが、例年の献金状況からは予算達成は困難と予想されます。

だからといって教会は収入の減った教会員からも献金を搾り取ろうというつもり

りはありません。

献金は、教会組織のためである以前に、まず信徒本人の信仰のためです。収入があったら十分の一を取り分けて（聖別して）、金銭から自由になり、心を天に向き変えることが第一です。全く無理をしないで余ったお金を出すのでは神に対して失礼です。

その意味では持続可能な範囲で無理をして、ご自身の大切な宝を献げてください。「あなたの富のあるところにあな

た心もある（マタイ六・21、ルカ二・34）」

とある通りです。喜んで献げる気持ちが増せば良いのであって、金額を上げるか下げるかは収入次第です。

もっともそれでは、教会全体として月定献金の大幅な収入増は見込めないかもしれません。

感謝献金は増加傾向にあります。葬儀が増えた結果なので、収入を予測しながら「予算」として感謝献金を増やすのはばかられる思いもありました。まるで教会員の健康状態を否定的に考えているように感じます。しかし個々人のことではなく長期的な人口動態として捉えることにしました。

戦後の日本ではクリスチャンが急増しました。高度成長期、信徒全体の収入も倍増しました。人が増えたことと各個人の収入が伸びたことから、しばらくの間は教会の月定献金収入は右肩上がりでした。

クリスチャン人口が頭打ちになり、月定献金は伸びが鈍化、やがて減少に転じました。その間、平均寿命が延びたために、葬儀は増えるよりもむしろ減った期間があったかもしれない。それが今は葬儀増加の時期に入ったのです。

増加傾向は永遠に続くわけではありませんが。信徒数が減れば葬儀数も減ります。日本の教会の財務体質は脆弱かつ不健全です。今日現在財政が逼迫しているわけではないならば、将来に対して何か手を打つなら今しかないという時期です。

平塚教会もこの流れの中にあります。種籾を豊かに蒔いても刈り入れがあるかないか人には分かりません。しかし少なくとも蒔かない限り収穫はありません。

「神に必要なものをすべて満たしてください」という御言葉に信頼して今できることを忠実にやりたいものです。そんな健全な教会を神が捨てておくとは思えません。



## 附属平塚二葉幼稚園

### 一〇〇年を迎える

5月7日、附属平塚二葉幼稚園は、一九二四年に平塚市で初めての幼稚園として誕生し、一〇〇年となりました。

今年度教会は、「平塚二葉幼稚園開園一〇〇周年を祝う」を標語に幼稚園と協力しながら様々な行事を実施することとなりました。

平塚教会五〇年史によりますと、開園から三年間は松原悟作さんの個人宅を借用したこと。土地の購入と園舎建築費用六五〇〇円（現在値二七〇〇万円）は、米国ミッシオンボードからの贈与と募金や寄付などで調達したことが書かれています。神様に支えられ、多くの人々の祈りと献身、そして神様の恵みによって生まれた幼稚園といえます。

5月19日はペンテコステ、幼稚園開園100周年記念礼拝、園児たちは登園し親子礼拝に出席し、幼稚園ホールで園百歳のお誕生日を特大ケーキでお祝いすることになっていきます。

残念ですが、原稿締切後に記念礼拝は行われまので、今月号には間に合いません。次月号をお待ちください。

### 二葉幼稚園設立

教会の婦人会では、よりより幼稚園設置のことを相談してきましたが、この年ようやく県知事より許可をうけました。最初、松原悟作さん（現在地の近く）の家を借用しました。当時の職員の構成は、園長比企清、教師水野夕児、有坂静恵、音楽西森いは。園児は35名でした。入園希望者がだんだん多くなり園舎建築の声がおこりました。

ちようど、米国ミッシオンボードのミス・フォーレス委員が教区視察で平塚に立ち寄り、この園舎建設の必要性を痛感して帰りました。帰国後、同委員は園舎建築資金の募集をはじめ、当時の金額で四〇〇〇円を贈られました。

教会としては、特に婦人会が主体となって資金集めを行い、名画鑑賞会、石井漢バレー団、綿貫ハーモニカ楽団の各興行、バザーなどを行い、さらに町の有志の人から寄付をおおぎ二五〇〇円を得ました。

なお、現在の教会堂および幼稚園の敷地は田地四五〇坪、所有者原田敬治氏より三〇〇〇円で購入したものです。その当時、半分をうめたてて、そこに75坪の園舎を三五〇〇円かけて建築し、ここに移転したのでした。

とくに、幼稚園につき忘れてならない人にミス・ハジスがいます。ミス・ハジスは一八七七年、アメリカ、ウエスト・ヴァージニア州生まれ、ナッシュヴィル・テネスイ・ビイボディ・ノーマルカレッジを卒業、明治35年来日、37年横浜英和女学校の第7代校長に就任した美普教会の宣教師ですが、この方の二葉幼稚園に対する物心両面の援助は多大なものでした。ことに、ミス・ハジスは、幼稚園の教育面の指導に心くだかれ、先生ご自身で養成された幼稚園教師を次々と送って下さってわが二葉幼稚園としてはまさに恩人でした。

かくして、昭和2年、かねて建設中の幼稚園舎は5月7日落成式を迎えました。式は町の名誉職、教会員、幼稚園関係者など90名が出席、酒井長吉牧師司式で成果裡に行われたのであります。

（日本基督教団平塚教会五〇年史 一九二四年記録より抜粋）

# 二〇二四年度スタート

4月28日、教会総会が31名の出席をえて開かれ、活動計画、幼稚園・教会会計など、全ての案件が承認され2024年度がスタートしました。

しかし、皆さんで考えなければならぬ課題も浮かんできました。その一つに財政面の課題があります。

前年度の報告では、収入予算は目標を越えたものの、月約献金は予算に達せず特別献金によって補っている状況です。今年度は月約献金を百万円下げたの予算となりましたが、「牧師謝儀は月約献金から」をモットーに財務の改善を心掛けていきたいものです。

そして、役員選出も定数の10名に達せず(次点者もない)、メンバーが固定化されてきている傾向にあります。将来のことを考えると、早急に対策を検討する必要がありますのではないのでしょうか。

## ◎標語

平塚二葉幼稚園開園一〇〇周年を祝う

## ◎課題聖句

神の恵みによって今日の私があるのです

(コリント信徒への手紙Ⅰ第15章10節)

## ◎役員の方担

- 星野 俊則 (書記・総務) ※
- 庄司 幸夫 (総務・教会学校長) ※
- 日下部明美 (礼拝) ※
- 山田美千代 (礼拝)
- 富田 光子 (会計)
- 中村 寛志 (会計・教区総会議員) ※
- 松田 隆司 (財務・営繕)
- 李 三悦 (伝道・営繕) ※
- 中山 洋司 (広報) ※

※印は責任役員

## ◎幼稚園理事

- 北川 一明 (主任担任教師・園長)
- 日下部明美 (教会員)
- 庄司 寿美 (教会員)
- 中山 洋司 (責任役員会)
- 倉持 啓子 (学識経験者)

## ◎会計監査委員

- 西田 牧人 (継続)
- 岡村 真理 (新)

## 母の日「カーネーション」

今年の「母の日」では、子どもたちが作っ

たフェルトのカーネーションをプレゼントできました。手作りの会の協力で行ったクリスマスオーナメントが好評だったことから、今回も協力を求めたところ快諾を得られ実現できました。今後は「さん木かい」や「平和を学ぶ会」など、教会員のグループと連携して教会学校を育てて行きたいと考えています。(教会学校長 庄司幸夫)



## 「編集後祈」

前号で、川島英雄兄の葬儀を4月15日と掲載しましたが、4月16日に訂正し、お詫びいたします。

今年度がスタートしました。課題が山積していますが主と共に歩んでいきましよう。(編集子)